

オーストラリア連邦ニューサウスウェールズ州幼小中高一貫
地理シラバス2015年版の地理的探究スキルの分析

— 我が国の「社会的事象等について調べるまとめる技能」の改善に向けて —

吉田 剛, 管野 友佳

オーストラリア連邦ニューサウスウェールズ州幼小中高一貫 地理シラバス 2015 年版の地理的探究スキルの分析

— 我が国の「社会的事象等について調べるまとめる技能」の改善に向けて —

* 吉田 剛, ** 管野 友佳

Analysis of Geographical Inquiry Skills in the Geographical Syllabus 2015 of New South Wales,
Australia Consistent with Kindergarten, Elementary, Secondary and High Schools
:To Improve "Skills for Researching and Summarizing Social Phenomena" in Social Studies
Education in Japan

YOSHIDA Tsuyoshi and KANNO Yuka

要 旨

本稿は、我が国における社会系教科の「社会的事象等について調べるまとめる技能」、そして地理教育カリキュラムとしての探究技能の一貫性を考えるために、オーストラリア連邦NSW州地理シラバス2015年版の『地理的探究スキル』の一貫性について分析・考察した。『地理的探究スキル』の一貫性は、六つの要素が司り、それらは、『獲得』『処理』『伝達』の三つの学習過程における系統表に反映されていた。系統表にみる思考の動作を示す動詞や、小単元の「具体的な活動指示場面」における思考の動作を示す名詞について分析・考察すると、概ね全学習段階で見られる思考の動作を示す動詞や名詞は、一貫性に関わる基礎・基本としてみられた。そして思考の動作を示す名詞の分析を通じて、『獲得』『処理』『伝達』の学習過程は、学習段階に応じて三つの重みに移り変わることも明らかにされた。これらの結果をもとに、我が国における社会系教科の「社会的事象等について調べまとめる技能」、そして地理教育カリキュラムとしての一貫性を整備・発展させるための有益な知見が得られた。

Key words : 一貫地理教育カリキュラム, 地理的技能, 探究技能, 作業技能, 思考の動作

1. はじめに

1) 問題の所在

唐木(2019)によれば、平成29年版小社・平成29年版中社・平成30年版高社¹⁾の新小中高社会系教科では、「内容の枠組み」「社会的見方・考え方」「社会的事象等について調べまとめる技能」の小中高の一貫

性の具体的な手立てに繋がる三つの構成領域が提案された。とくにこれまで十分に整理されてこなかった「社会的事象等について調べまとめる技能」は、平成29年版小社・平成29年版中社・平成30年版高社の各々で小中高を一括する共通の内容で示されたが、「収集する」「読み取る」「まとめる」の探究技能と、地図、年表、情報機器、調査活動、基本統計などの作業技能

* 宮城教育大学教職大学院

** 仙台市立西山小学校

に関するわずかな例示に止まる²⁾。課題は、探究技能と作業技能の一貫性の議論とともに、「社会的見方・考え方」との関係の議論などの深化があげられるが、「内容の枠組み」の地理・歴史・公民の三分野構成がもたらす困難さが予見できる。そこで本稿は、地理教育カリキュラムに絞り、「社会的事象等について調べまとめる技能」に相当する、まず地理的技能としての探究技能や作業技能の一貫性に着目する。

我が国の地理教育カリキュラムの一貫性に関する総合的な研究には、山口ほか(2008)による小中高地理教育一貫カリキュラムの試案、井田(2016)による社会科等の総合性と地理学の専門性の点から地理学習の一貫性や人間形成を理念的に論じた成果がみられるが、小中高の大枠の議論が主となり、地理的技能としての探究技能と作業技能の一貫性に関する議論はみられない。

地理的技能の一貫性に関する主な研究からみると、米国地理教育ガイドライン(米地理1984年版)³⁾や地理ナショナル・スタンダード(米地理1994年版)⁴⁾に関する田部ほか(1997)、草原(1999)、吉田(2011, 2017)、金(2012)による検討や我が国への示唆があげられる。米地理1984年版と米地理1994年版には、一貫する地理的概念(テーマ)とともに探究技能に作業技能が組み込まれているが、我が国を対象とする先行研究では、一貫する探究技能と作業技能の関係について十分に検討されていない。

探究技能に関する主な先行研究からみると、米地理1984や米地理1994の影響が窺える吉田(2003, 2011)や井田(2008)、さらに金(2012)による地理教育国際憲章や主な諸外国地理教育カリキュラムをもとにした理念的な検討、岩野(2017)による英国地理教科書にみる探究技能から我が国の中学校に於ける具体的な提案がある。探究技能の一貫性の議論に絞ると、井田(2008)や吉田(2011)による理念的な段階付けがわずかにみられるが皆無に等しい。

一方、地図、地図帳、地球儀、地理写真、フィールドワーク、基本統計、ICTなどの作業技能に関する先行研究は、多様にみられる。しかしその一貫性の議論に絞ると、個別の具体的な学習場面からの説明が多いことから、探究技能との関係からの深い議論に及んでいない。ただしそれに寄与する、朝倉(1994)の地図帳に関する小中高生の意識調査から各学校種の地図指

導への提言、国土交通省国土政策局(2012)による小中高の学習指導要領を踏まえたGISの効果的な活用法や実践例、池(2012)による小中高教員の意識調査から地域調査の一貫性への提言などが一部にみられる。とくにフィールドワークなどの調査法に関する主なものをみると、篠原(2001)による小中高大の野外調査の学習形態や問題点などを総括する成果がある。ただし調査法そのものが学習の対象や状況に応じて様々な探究のかたちをとるため、探究技能の汎用性には、強く意識が向けられていない。また青柳(2020)による中学校「地域調査の手法」の単元構想をみると、調査法を主とする単元では、必然的に探究に重きが置かれ、そのもとに作業技能の内容が加わる。これらから、各単元や個別の学習内容に応じた創造的な探究のかたちや調査法のあり方は認められるが、探究技能が一貫する地理教育カリキュラムにおいて積み重なる汎用的なものになることにも一層目を向ける必要がある。

2) NSW地理2015年版を探る意義

吉田・菅野(2016)によれば、オーストラリア連邦ニューサウスウェールズ州地理シラバス2015年版(NSW地理2015年版)⁵⁾は、幼小中高を一貫する『地理的概念』『地理的探究スキル』『地理的ツール』の三つの構成領域のもとで明確な体系と豊富な内容を持つフレームワークとなっている。またNSW地理2015年版は、世界的に稀少な国家公式の幼小中高一貫地理教育カリキュラムである、オーストラリア連邦地理教育カリキュラムの一部アレンジされたものでもあり、地理教育カリキュラムの一貫性を探る上で十分な意義を持つ。近年、菅野(2018)は、NSW地理2015年版の主な構成領域となる一貫する地理的概念の意味の理解と活用について考察し、幼小中高を一貫する「地理的概念の順次」の原理⁶⁾を明らかにし、我が国の地理的概念を視点とする地理の見方・考え方の一貫性の議論を発展させている。ただし『地理的探究スキル』や『地理的ツール』の一貫性に関する深い議論には至っていない。そして『地理的探究スキル』と『地理的ツール』は、本稿で着目する地理的技能としての探究技能と作業技能に概ね相当することから、これらを分析・検討することは、我が国の一貫地理教育カリキュラムを考える上で意義を持つ。ただし『地理的ツール』の内容の一部は、『地理的探究スキル』の系統表の各所にもみられ、『地理的探究スキル』の内容をやや具体

的に説明する部分に用いられている。そのため、まずは『地理的探究スキル』に着目する必要がある。

3) 研究の目的と方法・手順

本稿は、NSW地理2015年版における『地理的探究スキル』の一貫性について分析・考察することを通じて、我が国における社会系教科の「社会的事象等について調べるまとめる技能」、そして一貫地理教育カリキュラムとしての議論に示唆を得ることを目的とする。方法・手順には、次の五つをとる。

- ① NSW地理2015年版の主な構成領域となる『地理的概念』『地理的探究スキル』『地理的ツール』の三つの概要について把握する(2章)。
- ② 『地理的探究スキル』の一貫性について、冒頭文よりその原理的な要素を見だし、『地理的探究スキル』の学習段階を示す系統表に对照して、反映のされ方から分析・考察する(3章)。
- ③ 系統表の『獲得』『処理』『伝達』の三つの学習過程における思考の動作に着目する。とくに思考の動作を示す動詞(不定詞の中の動詞を含む⁷⁾)を取り上げ、原理的な要素の特徴を踏まえながら、学習段階におけるその出現と一貫性の点から詳細に分析・考察する(4章)。
- ④ さらに一貫性を追究するために、小単元の「具体的な活動指示場面」での思考の動作を示す名詞⁸⁾を取り上げる。取り上げた名詞を、小単元の文脈から三つの学習過程のいずれかへの該当を便宜的に推定して分類した上で、学習段階におけるその出現と一貫性の点から分析・考察する(5章)。
- ⑤ 以上の結果をもとに、『地理的探究スキル』の一貫性について総合的に考察した上で、我が国における社会系教科の「社会的事象等について調べるま

とめる技能」、そして小中高一貫地理教育カリキュラムとしての探究技能などの議論に向けて示唆を得る(6章)。

2. 『地理的概念』『地理的探究スキル』『地理的ツール』とは何か

『地理的概念』は、場所、空間、環境、相互関連、スケール、持続性、変化からなり、児童・生徒に地理的思考をさせる際に深く関わる地理的理解の発達に不可欠な鍵となる。それらによる一貫性を示す系統表では、学習段階に応じて各々が示されている(BOSTES, 2015, pp.18-22)。具体的には、学習段階は、就学前段階(ES1)、ステージ1(S1:小学校低学年)、ステージ2(S2:小学校中学年)、ステージ3(S3:小学校高学年)、ステージ4(S4:中等学校前期)、ステージ5(S5:中等学校後期)からなる。ES1から場所・空間・環境、S1から相互関連・スケール、S2から持続性、S3から変化が、各々初出し、次の学習段階以降、連続して示されている。

『地理的探究スキル』は、総則(BOSTES, 2015, p.9)より、「地理情報の獲得、処理、伝達を伴う」「地理的な問いを立て、探究を計画し、情報を評価・処理・分析・解釈し、根拠と筋道立った推論のもとに結論に辿り着き、その知見を評価・伝達する。探究を熟考し学んだ成果を行動に移す」と原理的に説明されている⁹⁾。また第1表より(BOSTES, 2015, p.23.)、『地理的探究スキル』は、定位された『獲得』『処理』『伝達』の三つの学習過程から示されている。その中で、『獲得』には○「課題設定」と●「情報の収集・選択」、『処理』には□「情報の取り扱い」と■「情報の分析・解釈」、

第1表 NSW地理2015年版における地理的探究スキルの内容と意味

基本的な段階	内容	要素(筆者考察)
地理情報の『獲得』	○問題点や疑問点に気付く ○問題点や疑問点を調べて地理的な課題に発展させる。	○「課題の発見・設定」
	○地理的な一次データを収集する ○二次的な情報源から地理情報を集める ○情報を記録する	●「情報の収集・選択」
地理情報の『処理』	○バイアスを取り除き、信頼性を高めるためにデータと情報を評価する ○適切な形でデータと情報を表現する	□「情報の取り扱い」
	○集めたデータを解釈する ○知見と結果を分析する ○結論を導き出す	■「情報の分析・解釈」
地理情報の『伝達』	○様々な戦略を使って内容・目的を聞き手に適切に結論を伝える	◇「適切な手法」
	○調査で学んだことや探究の過程や有効である知見を反映する ○行動を提案し、成果を予測する ○行動を起こす適切な場所を考える	◆「学習成果の反映」

BOSTES(2015, p.23)より筆者作成

第2表 地理的探究スキルの系統

学習段階	地理情報の『獲得』 ○「課題の発見・設定」 ●「情報の収集・選択」	地理情報の『処理』 □「情報の取り扱い」 ■「情報の分析・解釈」	地理情報の『伝達』 ◇「適切な手法」 ◆「学習成果の反映」
I期	ES1	○図かグラフを用いてデータを表示する。 ■観察による話し合いに基づいて結論を出す。	◇情報を提供する。 ◆学習を反映する。
	S1	○表・グラフか地図をつくることによって表現する。 ■分類した地理情報の解釈に基づいて結論を出す。	◇様々な伝達手段で知見を提供する。 ◆学習を反映し、発見への対応を示す。
II期	S2	○表・グラフ・地図をつくることによって表現する。 □適切な空間テクノロジーを用いて、地図製作の取り決めに従い、大きいスケールの地図をつくることによって情報を表現する。 ■分布やパターンを確かめるために、地理データを解釈し、結論を出す。	◇様々な伝達手段で知見を提供する。 ◆現代的な地理的課題に対する個人の行動に提案する学習に反映し、その提案の期待される効果を確認する。
	S3	○情報源の有用性を評価する。 □異なる形でデータを表示する。例えば計画・グラフ・表・スケッチ・ダイアグラム。 □適切な空間テクノロジーを用いて、地図製作の取り決めに従い、地図をつくることによって異なる型による地理情報を表現する。 ■適切なデジタル・空間テクノロジーを用いて、地理データを解釈する。そして空間的な分布・パターン・傾向を確かめ、結論を出すために関係性を推測する。	◇適切に様々な伝達手段で発見や考えを提供する。 ◆現代的な地理的課題に対する個人と集団の行動に提案する学習に反映し、人々の異なるグループにおいてその提案による期待される効果を記述する。
III期	S4	○情報源の信頼性と有用性を評価する □デジタル・空間テクノロジーを用いるかいないかの様々に適切な形でデータを表示する。 □適切な空間テクノロジーを用いて、地図製作の取り決めに従い、異なるスケールにおいて地図をつくることによって、地理現象の異なる型の空間分布を表現する。 ■空間の分布・パターン・傾向の説明の確認し提案するために、質的・量的方法、適切なデジタル・空間テクノロジーを用いて、地理データや他の情報を分析する。そして関係性を推測する。 ■選ばれたデータと情報の分析に基づいて結論を出すために地理的概念を適用する。	◇適切に地理の専門用語やデジタル・テクノロジーを用いて、ある特定の観衆と目的に合わせるために選んだ様々な伝達手段によって、知見・議論・アイデアを提供する。 ◆環境的・経済的・社会的な配慮を考慮しながら、学習を現代の地理的課題に対する個人と集団の行動に提案する学習に反映し、その提案によって期待される成果を予測する。
	S5	○情報源の信頼性と有用性を評価する。 □デジタル・空間テクノロジーを用いるかいないかの適切な形にし、様々に変化するデータを表示する。 □適切に空間テクノロジーを用いて、地図製作の取り決めに従い、地図で地理現象の空間的な分布を表現する。 ■パターン・傾向・関係性・例外の説明の一般化や推論を行い、提案するために、適切な質的・量的方法、デジタル・空間テクノロジーを用いて様々に変化するデータとその他の地理情報を評価し、成果を予測する。 ■様々な見方を考慮しながら、様々な情報源から情報を組み合わせ、データ・情報の分析に基づいて結論を出すために地理的概念を適用する。 ■地理データを分析し予測するための地理情報システム(GIS)はどのように用いられるかを確かめる。	◇適切に地理の専門用語やデジタル・テクノロジーを用いて、観衆と目的に合わせるために、効果的に選んだ様々な適切な伝達手段によって、知見・議論・説明を提供する。 ◆環境的・経済的・社会的な配慮を考慮しながら、探究による知見を、現代の地理的課題に対する個人と集団の行動に提案する学習に反映し評価する。そしてその提案による期待される成果と貢献を説明する。

BOSTES(2015, pp.24-25)より筆者作成

『伝達』には◇「適切な手法」と◆「学習成果の反映」、の六つの要素が考えられる。『地理的ツール』は、地図、フィールドワーク、グラフと統計、空間テクノロジー、視覚的な表現の五つの項目から個別に説明され、その系統表では、簡易な語句によって内容が示されている(BOSTES, 2015, pp.26-29)。

3. 『地理的探究スキル』の系統表における思考の動作を示す動詞の分析

第2表は、第1表の『地理的探究スキル』の六つの要素を、系統表に对照した結果である。これによって六つの要素は、『地理的探究スキル』の一貫性を担っ

ていることが確かめられる。なお系統表の各所(とくに『獲得』の●「情報の収集・選択」、『処理』の□「情報の取り扱い」、■「情報の分析・解釈」)には、『地理的ツール』の内容の一部がみられ、『地理的探究スキル』と『地理的ツール』は、密接に関係している。

続いて、第3表は、第2表の詳しい内容にみられる思考の動作を示す動詞(不定詞の動詞も含む)を、「ES1・S1」(I期)、「S2・S3」(II期)、「S4・S5」(III期)の段階から取り上げ、とくに初出以降、連続して出現する動詞について分析・考察したものである。

『獲得』では、○「課題の発見・設定」に関するII期の「発展させる」「計画する」、●「情報の収集・選択」

第3表 『地理的探究スキル』における思考の動作を示す動詞の一貫性

思考過程段階	動詞 ○「課題の発見・設定」 ●「情報の収集・選択」 □「情報の取り扱い」 ■「情報の分析・解釈」 ◇「適切な手法」 ◆「学習成果の反映」	ステージ段階					
		I期		II期		III期	
		ES1	S1	S2	S3	S4	S5
『獲得』	○提示する pose	1	1				
	○観察する make observations	1					
	●記録する record	1	1	1	1	1	1
	●収集する collect		1	1	1	1	1
	○発展させる develop			1	1	1	1
	○計画する plan			1	1	1	1
	●調べる investigate			1	1		
	●選択する select					1	1
●組織化する organize						1	
『処理』	□表現する represent	1	1	1	1	1	1
	■結論を出す draw conclusions	1	1	1	1	1	1
	■解釈する interpret			1	1		
	■見分ける identify			1	1	1	1
	■評価する evaluate				1	1	2
	■推測する infer				1	1	
	■分析する analyze					1	1
	■提案する propose					1	1
	■適用する apply					1	1
	■一般化する make generalizations						1
	■推論する make inferences						1
	■予測する predict(make predictions)						2
■組み合わせる synthesize						1	
『伝達』	◇提供する present	1	1	1	1	1	1
	◆反映する reflect						
	◆示す suggest		1				
	◆提案する propose			1	1	1	1
	◆確認する identify			1			
	◆記述する describe				1		
	◆合わせる suit					1	1
	◆予測する predict					1	
◆評価する evaluate						1	
◆説明する explain						1	

* 数値は、動詞の出現数で、I～III期まで続くものは濃い灰色、その他、III期まで続くものは薄い灰色(BOSTES, 2015, pp.24-25). BOSTES(2015)より筆者作成

に関するI期の「記録する」「収集する」とIII期の「選択する」が連続してみられる。

『処理』では、□「情報の取り扱い」に関するI期の「表現する」、■「情報の分析・解釈」に関するI期の「結論を出す」、II期の「見分ける」「評価する」、III期の「分析する」「提案する」「適用する」が連続してみられる。

『伝達』では、◇「適切な手法」に関するI期の「提供する」、◆「学習成果の反映」に関するI期の「反映する」、II期の「提案する」、III期の「合わせる」「説明する」が連続してみられる。

以上から、IからIII期まで一貫して出現が続く動詞は、「地理的探究スキル」の一貫性に関わる思考の動作の基礎・基本としてみられる。それらは、○「課題の発見・設定」を除く、他の五つの要素の系統に属することになる。ただしES1・S1の発達段階より教師自体による課題設定が見込まれ、第2表の細かい内容

に照らし直すと、○「課題の発見・設定」のI期の「提示する」「観察する」と、それらをII期以降にみられる同じく○「課題の発見・設定」のII期の「発展させる」「計画する」に繋げ合わせてみることができる。そして一つの系統として「課題を提示しあるいは発見し、発展させて計画する」といった文脈に捉え直すと、IからIII期まで一貫して出現が続く○「課題の発見・設定」の動詞の意味として捉えられる。これによって、基礎・基本となるIからIII期まで一貫して出現する動詞は、六つの要素の全てに属することになる。つまり、六つの要素は、『地理的探究スキル』の一貫性を司るものとして考えられる。その他、II期、III期と連続して出現するものは、基礎・基本の次に進む発展・応用に寄与する動詞となり、思考を広げ深め、応用力を高める役割を担うものとみられる。

4. 「具体的な活動指示場面」における思考の動作を示す名詞の分析

第4表より、「具体的な活動指示場面」(○)は、小単元で「求められている知識」(■)の理解に向けて、『地理的探究スキル』『地理的ツール』『地理的概念』が一

体化してみられる場面となる。

第4表上段は、小単元の「具体的な活動指示場面」で動作を示す名詞を、小単元の文脈から原理的な要素をもとに三つの学習過程のいずれかへの該当を便宜的に推定して分類した結果を示す。

第4表 小単元の「具体的な活動指示場面」における思考の動作を示す名詞の分類

段階と単元名	小単元名(◇)。「求められている知識」(■)。「具体的な活動指示場面」(○)。 【三つの学習過程に該当する名詞の分類】 『獲得』(①表記)：話し合い：discussion, 確認：identification, 位置：location, 記述：description. 『処理』(②表記)：検討：consideration, 比較：comparison, 考察：examination, 評価：assessment, 分類：classification, 分析：analysis, 概要：brief, 査定：evaluation. 『伝達』(③表記)：話し合い：discussion, 説明：explanation, 発展：development, 提案：proposal, 予測：prediction. * ESI:就学前段階, S1~S3:小学校段階, S4とS5:中等学校段階. AUG:豪州連邦の略。	
E S 1 場 所 に 生 き る 人 々	◇重要な場所	■私たちが生活し属する場所の重要性について調べる。 ○私たちが生活し属する場所の 確認① ○なぜ場所が特別でどのように人々が大切にしているのかの 話し合い③ ○なぜ人々が場所を大切にしなければならないのかの 説明③
	◇アボリジナルとトレス諸島の場所	■アボリジナルやトレス諸島の人々にとって重要な国や場所を調べる。 ○アボリジナルかトレス諸島の人々の用地が国か場所かの 確認① ○なぜその用地が国か場所にとって重要なのかの 話し合い③
S i 場 所 の 特 徴	◇場所の位置	■どのように場所の位置を示すことができるかを調べる。 ○地図上の親しい地元の場所の 位置① ○場所の位置の 記述①
	◇場所の特徴	■どのように場所の特徴やそれを気遣うことできるのかを調べる。 ○場所の自然・人文的 特徴の記述① ○アボリジナルやトレス諸島の伝説で特定された場所の自然的特徴の 話し合い① ○どのように公園等の場所を管理できるかの 検討②
ii 人 々 と 場 所	◇天気と季節	■場所の天気や季節を調べる。 ○親しい場所の毎日や季節の天気パターンの 記述① ○場所の毎日や天気パターンの 比較② ○アボリジナルやトレス諸島の人々を含む様々な文化を持つ人々がどのように天気や季節あるいは季節カレンダーを説明するかの 考察② ○どのように天候は場所や農業等の活動に影響するかの 話し合い③
	◇どう場所を整理するか	■場所の中で行われる活動を調べる。 ○なぜどのようにして場所の空間は学校ホール等の様々な目的のために整えられたのかの 話し合い① ○なぜ地域の中の様々な活動は学校等の場所に位置するかの 考察②
S 2 場 所 の 類 似 性 と 相 違 性	◇AUSの場所	■AUSを横断して場所を調べる。 ○個別、地方、国などの様々なスケールから存在する場所の 確認①
	◇AUSの位置	■世界におけるAUSの位置を調べる。 ○大陸や海洋等の世界に繋がるAUSの 位置の記述①
S 2 i 場 所 の 類 似 性 と 相 違 性	◇場所との人々の繋がり	■場所への人々の繋がりと接近を調べる。 ○なぜ、人々は他の場所を訪れるのかの 話し合い① ○距離等の人々の場所への接近のしやすさ等の要因の 確認① ○どのようにテクノロジーは人々に場所への接近を改善させてきたのかの 考察②
	◇ローカルとグローバルの繋がり	■アボリジナルやトレス諸島の人々を含む人々がローカルやグローバルな場所へ持つ繋がりを調べる。 ○アボリジナルやトレス諸島の人々の陸、海、その場所の動物との 繋がり話し合い① ○例えば生まれ故郷となるオーストラリアあるいは世界の国々の場所と繋がる人々の理由の 記述①
S 2 i 場 所 の 類 似 性 と 相 違 性	◇AUS大陸	■AUSの主な自然的・人文的 特徴を調べる 。 ○砂漠、川、山等のAUSの自然的 特徴の記述① ○AUSの州、領域、主要な都市の 位置① ○アボリジナルやトレス諸島の人々の国・場所の 確認①
	◇AUSの近隣	■AUSの近隣諸国とそれらの多様な個性を調べる。 ○AUSの近隣諸国の 位置① ○近隣諸国の自然的 人文的 特徴の 考察② ○AUSの都市と近隣諸国の都市との自然的・人文的 特徴の比較②
S 2 i 場 所 の 類 似 性 と 相 違 性	◇場所の気候	■異なる場所の 気候を調べる 。 ○天気は気候にどのように影響を与えるかの 話し合い① ○異なる場所の 気候の比較②

<p>◇場所間の類似性と相違性</p> <p>◇場所の認識と保護</p>	<p>■場所の居住パターンと人口動態上の個性またそこで生きる人々の生活を調べる。</p> <p>○様々な居住パターンと場所の人口動態の考察②</p> <p>○異なる場の人々の日常生活の比較②</p> <p>■どのように場所の保護は人々の場所認識によって影響されるのかを調べる。</p> <p>○どのようになぜ人々は場所の相違性に気付くのかの記述①</p> <p>○どのように人々の認識は世界遺産・国立公園・神聖地等のAUS各地の保護に影響を与えるかの話し合い③</p>
<p>ii 地球の環境</p> <p>◇異なる環境</p> <p>◇環境を重要性</p>	<p>■AUSとアジアの国の自然的な個性を調べる。</p> <p>○気候、自然植生、固有の動物の比較②</p> <p>■自然界の植生や資源による環境・動物・人々に対する重要性を調べる。</p> <p>○森林、草地、砂漠などの自然植生タイプの確認①</p> <p>○居住地の供給や酸素を生産する自然植生のための環境機能の重要性の説明③</p> <p>○食糧、薬、燃料、木材、繊維、金属の供給等、人々にとって自然植生と自然資源の重要性の話し合い③</p>
<p>◇環境の認識</p> <p>◇環境の保護</p>	<p>■アボリジナルやトレス諸島の人々を含む人々の環境への価値付けを調べる。</p> <p>○なぜ人々は環境、例えば文化的・農業的・商業的・レクリエーション的な価値等の違いを価値付けるかの話し合い①</p> <p>○どのように国や場所のための保護責任がアボリジナルやトレス諸島の人々の環境への見方に与える影響を与えるかの記述①</p> <p>■アボリジナルやトレス諸島の人々を含む環境を保護する持続可能な取り組みを調べる。</p> <p>○どのように環境は持続可能な農業・商業・レクリエーションの取り組み等に持続的に利用可能かの考察②</p> <p>○廃棄物を管理する持続可能な方法の話し合い③</p> <p>○アボリジナルとトレス諸島の人々の持続可能な環境利用の取り組みがどのような考察②</p>
<p>S 3 i 場所を形作る環境</p> <p>◇場所を形作る人々</p> <p>◇場所を形作る要因</p>	<p>■人々によるAUSと他国の自然環境を変化させる方法を調べる。</p> <p>○アボリジナルやトレス諸島民を含め人々がどのように互いの国の環境に影響を与えていたかの考察②</p> <p>■どのように自然環境は人々や場所に影響を及ぼすのか調べる。</p> <p>○どのように自然環境は人々の生活する場所の分布に影響を与えるかの話し合い①</p> <p>○地形はAUSや他国で人々の暮らしにどこでどのような影響を与えるかの比較②</p> <p>■どのように人々は場所に影響を及ぼすのか調べる。</p> <p>○場所を誰がどのように組織・管理するのかの記述①</p> <p>○例えば道路やサービス、建物造成の適用、地方の持続可能な主権等で人々が場所に影響を与え持続性に貢献する仕方の確認①</p> <p>○地方計画の課題の考察②；課題の異なる視点とその対応としての実現可能な行動</p>
<p>◇山火事災害</p>	<p>■AUSの現代的な山火事災害の衝撃を調べる。</p> <p>○災害の位置と範囲の確認①</p> <p>○災害が自然植生における災害の衝撃やコミュニティに引き起こす損傷の記述①</p> <p>○どのように人々は山火事の影響を防ぎ最小限に押さえたりすることができるかの考察②</p>
<p>ii 世界の多様性</p> <p>◇世界の文化の多様性</p> <p>◇世界的な繋がりが</p> <p>◇認知を形作る繋がりが</p>	<p>■アジア地域内の地理的特徴の多様性を調べる。</p> <p>○AUSと繋がるアジア地域の国々の確認①</p> <p>○アジアの国々の間の経済・人口動態・社会の違いの考察②</p> <p>■固有の人々の文化を含む世界の文化的多様性を調べる。</p> <p>○固有文化を持つグループも含めた、異なる文化グループの確認①</p> <p>○様々な文化（習慣、信条、社会組織など）の考察②</p> <p>■AUSと世界における他国間の繋がりを調べる。</p> <p>○AUSの他国との繋がりの記述①</p> <p>○重要なイベントと、それが人々や場所に与える地方、地域、世界的な影響の考察②</p> <p>■どのような繋がりが人々の場所への認識と理解に影響を及ぼすのか調べる。</p> <p>○人々の場所に対する認識に影響を与える要因（メディア等）の確認①</p> <p>○場所の一般性と固定観念が与える影響の話し合い③</p>
<p>S 4 i 景観と地形</p> <p>◇景観と地形の価値</p> <p>◇景観の変化</p> <p>◇景観の管理保護</p> <p>◇地形の危険</p>	<p>■異なる景観と特有の土地を生み出す地表変化を調べる。</p> <p>○様々な景観と地形の確認①</p> <p>○地形を形成する地形プロセスの説明③</p> <p>○ある景観と特有の地形の考察②</p> <p>■アボリジナルやトレス諸島の人々を含む人々の景観や土地の美しく文化的・精神的・経済的な価値を調べる。</p> <p>○文化やアイデンティティとなる景観や地形の美的価値の説明③</p> <p>○異なる場所における景観か地形の文化的・精神的な価値の記述①</p> <p>○どのように景観は他国の人々にとって経済的価値のあるものになり得るのかの確認①</p> <p>■人間が引き起こし、もたらした景観の悪化を調べる。</p> <p>○人々が景観を利用したり、変化させたりする方法の確認①</p> <p>○景観における人間活動範囲の影響の記述①</p> <p>○空間分布や原因、影響を含んだ景観の退廃のある型の考察②</p> <p>■アボリジナルやトレス諸島の人々を含む人々の景観の管理と保護の仕方を調べる。</p> <p>○スケールを横断する景観保護の広まりや自然の記述①</p> <p>○ある景観のための管理保護戦略の考察②</p> <p>○AUSの景観・地形利用と管理のためのアボリジナルやトレス諸島人の知識の貢献への評価②</p> <p>■ある現代の地表の原因・衝撃・反応を含む災害を調べる。</p> <p>○自然災害の空間的な分布の記述①</p> <p>○自然災害とその影響を引き起こす地形プロセスの説明③</p> <p>○自然災害やその影響に対する個人、グループ、政府の対応の考察②</p> <p>○地形の危険の観察や予測におけるテクノロジーの役割を含め、同じ危険な出来事の未来への影響を減らすための管理戦略の話し合い③</p>

ii 場所と 住みやす さ	◇影響と認識	<ul style="list-style-type: none"> ■場所の住みやすさの認識に影響を与える要因を調べる。 ○住みやすさの認識に影響を与える環境的な要因の考察② ○住みやすさの認識に影響を与える人的な要因の話し合い③ ○場所の住みやすさを測り、評価し、ランク付けする方法の説明③ ○地方の場所に対する個別の住みやすさの基準や妥当性の発展③
	◇サービスと施設の利用法	<ul style="list-style-type: none"> ■場所の住みやすさとなるサービスや施設への行きやすさの影響を調べる。 ○人々の幸福にとって重要であると考えられるサービスや施設の確認① ○都市や農村、人里離れた場所のサービスや施設への行きやすさの違いの考察② ○ある場所の様々な人々のグループの住みやすさに影響するサービスと施設への行きやすさはどのように制限されているのかの説明③
	◇環境の質	<ul style="list-style-type: none"> ■場所の住みやすさとなる環境の質のインパクトを調べる。 ○環境の質を変える要因についての話し合い① ○様々なスケールにおける場所の住みやすさが環境の質が与える影響の比較②
	◇コミュニティ	<ul style="list-style-type: none"> ■場所の住みやすさとなる社会的結束やコミュニティのアイデンティティの影響を調べる。 ○コミュニティのアイデンティティに影響を与える場所の特徴の確認① ○社会的な繋がりを高める要因の話し合い③
	◇住みやすさの改良	<ul style="list-style-type: none"> ■異なる国々の例を使い、場所の住みやすさを高めるための方略を調べる。 ○住むことに適していると考えられる場所の特徴の確認① ○住みやすさを高めるための様々な方略の考察② ○住みやすさを高めるための政府・非政府組織・コミュニティ・個人の役割の評価② ○AUSの場所の住みやすさを改善する方略の提案③
iii 世界の水	◇水資源	<ul style="list-style-type: none"> ■世界的な水資源の個性や空間的分布を調べる。 ○水資源の分類② ○資源として利用される水の様々な形の確認① ○水資源の空間的な分布パターンの考察②
	◇水の循環	<ul style="list-style-type: none"> ■人々と場所を繋ぐ水循環の操作法を調べる。 ○水の循環プロセスの確認① ○貯水区域の間で流れる水の説明③ ○様々な場所における水資源の水循環や利用性に影響を与える要因の考察②
	◇AUSの水資源	<ul style="list-style-type: none"> ■AUSと他の場所における水資源の量と多様性を調べる。 ○AUSの水資源の空間的な変化の分析② ○AUSにまたがる真水の利用の多様性の説明③ ○大陸の間の真水の利用の多様性の評価②
	◇水不足と水の管理	<ul style="list-style-type: none"> ■水不足の本質とその克服法を調べる。 ○異なる国々における水不足の状態・広がり・原因の記述① ○持続可能な水管理のために政府・非政府組織・個人・コミュニティが担う役割と水不足を克服する方略の評価② ○水管理に貢献する個人の活動の提案③
	◇水の価値	<ul style="list-style-type: none"> ■アボリジナルやトレス諸島の人々あるいはアジア地域の人々を含む人々のための水の経済的・文化的・精神的で美しい価値を調べる。 ○人々の水の使い方の記述① ○水の価値に関する人々の認識の多様性の話し合い③ ○アボリジナルやトレス諸島の人々、あるアジアのコミュニティにおける水の重要性の比較②
	◇自然災害	<ul style="list-style-type: none"> ■ある現代的大気災害か水文学的災害を調べる。 ○自然災害の空間的な広がり、原因、影響の説明③ ○自然災害の影響に対する個人・グループ・政府の責任の考察② ○自然災害タイプの発生、頻発、拡大における気候変動のインパクトの予測③ ○将来、似た自然災害が起きたときの影響を抑えるための管理戦略の話し合い③
	◇個人的な繋がり	<ul style="list-style-type: none"> ■将来のために異なる場所での人々の旅行や気晴らしや文化的な余暇の結付きの影響や効果を調べる。 ○旅行、レクリエーション、文化あるいはレジャー活動等のパターンと流行の分析② ○旅行、レクリエーション、文化あるいはレジャー活動等が場所の特徴に与える影響の考察② ○旅行、レクリエーション、文化あるいはレジャー活動等がその場所に及ぼす影響、場所の特徴のための意味合い、持続可能性を達成するための方略の説明③
iv 相互 関連	◇テクノロジー	<ul style="list-style-type: none"> ■人々が他の場所のサービス・情報・人に相互に関連するために用いる移動・情報・伝達の仕方を調べる。 ○移動技術がどのように人々と場所をつなぐのかの説明③ ○情報とコミュニケーションテクノロジーはどのように人々のサービスや情報、他の場所にいる人々との繋がりをふやすのかの考察② ○人々や場所への全世界的な接続可能性の高まりの影響の評価②
	◇貿易	<ul style="list-style-type: none"> ■場所や人々があるスケールを横断し商品やサービスの貿易を通して結び付く仕方を調べる。 ○AUSの貿易関係の確認① ○他の国々とながらる国の貿易の考察② ○グローバルな貿易の空間的なパターンの分析②
	◇生産と消費	<ul style="list-style-type: none"> ■世界中の人々・場所・環境における生産の効果や商品の消費を調べる。 ○消費財の生産と商品の環境的・社会的・経済的影響の考察② ○製品の生産及び消費がある場所または環境に与える影響の評価② ○政府、グループ、個人が生産と消費に与える影響を最小限にする責任の説明③
5 i 持	◇生態系	<ul style="list-style-type: none"> ■生態系の分布と自然的特徴を調べる。 ○生態系の空間的な広がりへの考察② ○食糧、工業用の原料、繊維の生産のために利用される生態系の確認① ○生産可能性に影響を及ぼす生態系に関わる気候・土壌・植生の説明③

ii	◇生態系の変化	<ul style="list-style-type: none"> ■食糧や工業的材料や繊維を生産するための人間による生態系の変化、それら変化の環境的な効果を調べる。 ○人間による生態系の自然的な特徴の改造の考察② ○人間による生態系の改造に伴う環境への影響の評価② ○環境への影響を最小限に押さえる上手いく持続可能な方略の話し合い③
	◇生態系が生産する食糧	<ul style="list-style-type: none"> ■AUS/世界を横断して、農業的な収穫に影響を及ぼす環境的・経済的・テクノロジー的な要因を調べる。 ○農産物の収穫量に影響を与える環境的な要因の考察② ○農産物の収穫量に影響を与えている経済的な要因の話し合い③ ○どのようにテクノロジーは農産物の収穫量を増やすために利用されているのかの説明③
	◇食糧生産の挑戦	<ul style="list-style-type: none"> ■AUSや世界の他地域のための食糧生産の環境的な挑戦を調べる。 ○水不足と水質汚染が食糧生産に与える影響の記述① ○土壌浸食と食糧生産への利用のための土地の奪い合いが及ぼす影響の話し合い③ ○気候変動の広がり食糧生産の増加に伴う各国の生産能力に与える影響の評価②
	◇食糧の安全性	<ul style="list-style-type: none"> ■AUSや世界のために持続可能な食糧安全のために世界の生物系の収容力を調べる。 ○将来に向けた食糧生産のための生態系による収容力の評価② ○将来予測される食糧需要への人口計画の分析② ○食糧の安全性を確保するための持続可能な実行の考察② ○全世界的な食糧の安全性へ貢献しうるAUSの可能性の話し合い③
iii	◇都市化の原因と結果	<ul style="list-style-type: none"> ■あるアジアの国を取り上げて都市化の原因と結果を調べる。 ○空間分布のパターンの確認① ○都市化の原因の記述① ○都市化の経済的・社会的・環境的結果の考察②
	◇都市の居住地パターン	<ul style="list-style-type: none"> ■AUSと他国との間の都市定住パターンの差異を調べる。 ○人口集中パターンを決定する都市居住地の考察② ○都市集中の影響要因の説明③ ○場所の特徴・住みやすさ・持続性などの都市集中の原因の評価②
	◇国内の移民	<ul style="list-style-type: none"> ■AUSと他国の国際的な移民の原因と効果を調べる。 ○一時的または半永久的な移住傾向の分析② ○国内移住における元の場所と移住地での経済的・社会的・環境的な結果に関する話し合い③
	◇国際的な移民	<ul style="list-style-type: none"> ■AUSへの国際的な移民の原因と効果を調べる。 ○国際的移住パターンの分析② ○国際的移住者はどこになぜAUSの中で移住するのかの説明③ ○AUSの文化多様性の特徴と空間的なパターンの考察②
	◇AUS都市の未来	<ul style="list-style-type: none"> ■AUS都市の未来の管理や計画を調べる。 ○AUSで計画された人口増加の記述① ○未来発展のための人口予測と都市部の持続性の話し合い① ○経済的・社会的・環境的に持続可能な都市づくりに用いる方略の説明③ ○個人やコミュニティが持続可能な都市の未来に貢献する方法の提案③
iv	◇環境	<ul style="list-style-type: none"> ■自然環境の役割と重要性を調べる。 ○生命を支える自然環境の機能の確認①
	◇環境の変化	<ul style="list-style-type: none"> ■あるスケールを横断して人間が引き起こした環境変化を調べる。 ○環境の変化のタイプと広がり簡単な概要②
	◇環境の管理	<ul style="list-style-type: none"> ■異なる世界的視野とアボリジナルやトレス諸島の人々への経営法を含む環境管理を調べる。 ○様々な環境管理のアプローチと考え方の話し合い③
	◇調査学習	<ul style="list-style-type: none"> ■選ばれた環境の機能への生物物理学的な過程の本質を調べる。 ○環境が機能する保全をするために生物学的プロセスがどのように作用するのかの説明③ ■環境変化の原因・程度・結果を調べる。 ○それぞれの国における環境の変化の原因と広がりの考察② ○それぞれの国における環境の変化の短期的長期的結果の分析② ■環境変化の管理を調べる。 ○それぞれの国における管理責任に影響する要因についての話し合い③ ○環境の持続可能性を成し遂げるための管理責任の効果の比較と査定② ○各国を持続可能な環境を達成するために個人がどのように貢献できるのかの提案③
v	◇人間幸福と開発	<ul style="list-style-type: none"> ■人類幸福と発展をはかり地図化する方法を調べる。 ○人類幸福への世界的な指針と基準の考察② ○空間的多様性を分析する目的のために人類幸福と発展をはかり地図化する方法の記述① ○人間幸福と発展の現代的な傾向の分析②
	◇人間幸福の空間的多様性	<ul style="list-style-type: none"> ■AUSにおける人類幸福の空間的な変化の原因と結果を調べる。 ○選択された指針を使っている国内あるいは国家間で人類幸福と発展における空間的な変化の記述① ○人類幸福と発展における空間的な変化の理由と結果の考察② ○場所の発展やある国が領域での人類幸福へインパクトに影響を与えている問題についての話し合い③
	◇AUSでの人間幸福	<ul style="list-style-type: none"> ■AUSと他の国々における人類幸福を向上させるための新しい試みを調べる。 ○様々な指針を用いたAUSの人類幸福の差異の確認① ○AUSの二つのグループの人類幸福の差異の理由と結果の考察② ○人々がAUSのどこに住むかによって人類幸福がどのように影響を受けるのかの分析②
	◇人間幸福の向上	<ul style="list-style-type: none"> ■人類幸福における空間的な多様性の原因・問題・結果を調べる。 ○人類幸福における空間的な変化の減少に対する政府と非政府組織による独創力の評価② ○人類幸福を高めるための個々の役割の話し合い③ ○AUSのあるグループの人類幸福を高めるための政府、組織、個人による行動の提案③

BOSTES (2015, pp. 13-14, p. 17, pp. 30-79) より筆者作成

『獲得』に関しては、ES1で4、S1で10、S2で9、S3で9、S4で16、S5で10、総計57出現し、全体の中で主に「確認」24、「記述」22、「話し合い」9、となり、全学習段階に出現する「確認」と「記述」は、思考の動作の基礎・基本としてみられる。

『処理』に関しては、ES1で0、S1で5、S2で8、S3で7、S4で26、S5で24、総計70出現し、全体の中で主に「考察」38、「評価」11、「分析」9、「比較」9などとなり、ES1を除く学習段階に出現する「考察」と「比較」は、思考の動作の基礎・基本としてみられる。「分析」と「評価」は、学習段階の後半によくみられるため、発展・応用として加わるものとみられる。

『伝達』に関しては、ES1で3、S1で1、S2で4、S3で1、S4で20、S5で18、総計47出現し、全体の中で主に「話し合い」19、「説明」18、「提案」5などとなり、概ね全学習段階に出現する「話し合い」と「説明」は、思考の動作の基礎・基本としてみられる。「提案」は、学習段階の後半にみられるため、発展・応用として加わるものとみられる。とくにS4からは、「説明」が中心となり、基礎・基本から発展・応用への変化としてみられる。S4・S5からは、『獲得』が減る一方で『伝達』が多くなり、とくに『処理』の名詞の後に『伝達』の「説明」や「話し合い」に重きが置かれる。

以上から、『獲得』の「確認」と「記述」、『処理』の「考察」と「比較」、『伝達』の「話し合い」と「説明」などの概ね全学習段階でみられる思考の動作を示す名詞は、基礎・基本としてみられる。また『処理』の「分析」と「評価」、『伝達』の「提案」などの学習段階の後半でみられるものは、発展・応用として加わるもの

とみられる。

続いて、学習段階ごとに考えていく。ES1では、『獲得』が主となる。S1では、『獲得』が主となるが、『処理』に繋がられている。S2では、所々に『処理』の場面が多くみられ、S3では、例えば「確認」から「考察」へ、『獲得』から『処理』への繋がりが明確にみられる。S4とS5は、『処理』から『伝達』への繋がりが充実し、『伝達』は、小单元内の最後に示される割合が多い。主な流れには、「記述」→「考察」→「話し合い」、「確認」→「考察」→「提案」、あるいは「考察」→「予測」、「評価」→「説明」などがあげられる。これらをまとめると、ES1・S1では、『獲得』を中心に、S2・S3では、『獲得』から『処理』への繋がりが明確となり、S4・S5では、『処理』から『伝達』への意図が充実するものとして考えられる。つまり学習段階に応じて、学習過程を辿る『獲得』『処理』『伝達』の重みが変わり、ES1・S1で『獲得』、S2・S3で『処理』S4・S5で『伝達』が重視されている。

5. 『地理的探究スキル』の一貫性を司る要素と思考の動作からの示唆

本稿の分析・考察の結果は、第5表にまとめられる。『地理的探究スキル』の一貫性は、原理的な内容から見いだされた六つの要素が司る。とくに○「課題の発見・設定」、□「情報の取り扱い」、◇「適切な手法」は、一貫性の中でも本質として、●「情報の収集・選択」、■「情報の分析・解釈」、◆「学習成果の反映」は、手段としてみられる。三つの学習過程において概ね全学習段階でみられる思考の動作は、一貫性に関わる基

第5表 『地理的探究スキル』の三つの学習過程における要素と思考の動作の関わり

三つの学習過程		『獲得』	『処理』	『伝達』
原理的な説明から見いだされた要素		○「課題の発見・設定」 ●「情報の収集・選択」	□「情報の取り扱い」 ■「情報の分析・解釈」	◇「適切な手法」 ◆「学習成果の反映」
思考の動作を示す動詞	基礎・基本	○「提示する」「観察する」 「発展させる」「計画する」 ●「記録する」「収集する」	□「表現する」 ■「結論を出す」	◇「提供する」 ◆「反映する」
	応用・発展(例)	●「選択する」	■「見分ける」「評価する」 「分析する」「提案する」 「適用する」「予測する」	◆「提案する」 「合わせる」
思考の動作を示す名詞	基礎・基本	「記述」「確認」	「考察」「比較」	「話し合い」「説明」
	応用・発展(例)		「分析」「評価」	「提案」

筆者作成

礎・基本として、また学習段階後半から加わって続く、思考の動作は、発展・応用としてみられる。これらの思考の動作について、思考のスキルとしてみると、その活用について、例えば第5表を参考にしながら、基礎・基本あるいは発展・応用などと意識する授業が求められることになる。さらには、社会系教科の汎用性の高い思考のスキルとして活用することも想定できる。加えて第4表より、『獲得』『処理』『伝達』の学習過程は、学習段階に応じて三つの重みが変わり変わっていくことが明らかにされた。これらの『地理的探究スキル』の一貫性に関わる特質は、我が国の一貫地理教育カリキュラムに向けた地理的技能としての探究技能のあり方への議論に繋がられる。

平成29年版中社 (pp.79-80) より、小中高の学習に広く共通するものとされる地理的技能をみると、地理情報を、①「収集する技能」(a.調査活動を通して、b.諸資料を通して、c.情報手段の特性や情報の正しさに留意して)、②「読み取る技能」(a.情報全体の傾向性を踏まえて、b.必要な情報を選んで、c.複数の情報を見比べたり結び付けたりして、d.資料の特性に留意して)、③「まとめる技能」(a.基礎資料として、b.分類・整理して、c.情報を受け手に向けた分かりやすさに留意して)の三つから説明されている。つまり①②③の探究技能は、一部の作業技能を用いて大まかに説明されている。

これら三つは、『地理的探究スキル』の学習過程に相当する部分が多くみられるものの、『処理』の「情報の分析・解釈」としての意味が少なく、思考の動作の指示がシンプルなものになっている。また学習段階に沿った系統表が得られていないため、教員に意識されづらく不明瞭になる恐れもある。これらの点に対して、NSW地理2015年版の『地理的探究スキル』には、一貫性をやや具体的に示す系統表とそれを意図する単元内容の例示が備わっている。個別最適な学びを見据え、児童生徒の多様な学びの歩み方を想定すると、我が国においても一貫する探究技能の系統の具体的な検討が必要であり、さらに作業技能や、地理的概念を視点とする地理的概念に基づく学習の内容と方法などとの関係付けの作業も不可欠となる。

6. むすび

本稿は、NSW地理2015年版の主な構成領域となる『地理的探究スキル』の一貫性について分析・考察した。『地理的探究スキル』の一貫性は、六つの要素が司り、それらは、『獲得』『処理』『伝達』の三つの学習過程における系統表に反映されていた。また系統表でみる思考の動作を示す動詞や、「具体的な活動指示場面」における思考の動作を示す名詞について分析・考察すると、概ね全学習段階でみられる思考の動作を示す動詞や名詞は、基礎・基本となることが考えられた。このような思考の動作を思考のスキルとして活用すると、『地理的探究スキル』を意図した授業に繋がる。そして思考の動作を示す名詞の分析を通じて、『獲得』『処理』『伝達』の学習過程は、学習段階に応じて三つの重みが変わり変わることも明らかにされた。これらの結果をもとに、我が国における社会系教科の「社会的事象等について調べまとめる技能」、そして地理教育カリキュラムとしての一貫性を整備・発展させるための有益な知見が大きく二つ得られる。

- ① 我が国における社会系教科の「社会的事象等について調べまとめる技能」に関する学習段階を具体的に考える上で参考になる。とくに我が国の小学校社会科カリキュラムは、いわゆる「総合社会科」と「分化社会科」の特色を兼ね備えている。そのため、本稿でみた『獲得』『処理』『伝達』の学習過程における思考の動作は、地理教育カリキュラムとしての「分化社会科」に止まらず、「総合社会科」の思考のスキルとしても幅広く意識して活用することができる。さらに小中高の社会系教科全体から眺めても、探究技能を意図した授業設計や実践あるいは児童生徒の個別最適な学習、その汎用性に関する議論に向けて役立てられる。
- ② 我が国の地理的技能としての探究技能に関しては、一貫性を意図する系統の内容が十分にみられず、「情報の分析・処理」の意味も少なく、概ね理念的な指示に止まる。課題は、探究技能そして作業技能も含めた一貫性に関わる系統表などによる具体的な内容の議論と、それに伴う学習の内容と方法などの議論が必要となる。つまり我が国における一貫地理教育カリキュラムとしてのフレームワーク全体の議論の深化と、その学校種・学年段階・

単元ごとの具体的な内容の例示が求められる。

付記

本稿は、科研費JP26381171の助成を受けたものである。とくに本稿の主に2・3章は、2018年度日本社会科教育学会全国研究大会において菅野が発表した成果である。また本稿は、2021年度日本社会科教育学会全国研究大会において吉田・菅野が発表した成果に加筆・修正したものであり、主に1・4・5・6章は、吉田が担当した。

注

- 1) 平成29年版小社：平成29年告示小学校学習指導要領社会，平成29年版中社：平成29年告示中学校学習指導要領社会，平成30年版高社：平成30年告示高等学校学習指導要領地理歴史科・公民科。
- 2) 例えば、「https://www.mext.go.jp/content/1407073_04_1_2.pdf」pp.174-175(2020/12/22確認)。
- 3) 中山(1991)による。
- 4) Geography Education Standards Project (ed.) (1994): Geography for life: National Geography Standards 1994. National Geographic Society, 272p. Geography Education National Implementation Project (2012): Geography for life: National Geography Standards Second Edition. National Council for Geographic Education, 117p.
- 5) BOSTES(2015): GEOGRAPHY K-10.(<http://syllabus.bos.nsw.edu.au/hsie/geography-k10/>) (2018/3/9確認)。
- 6) その特徴には、場所→空間→環境→相互関連→スケール→持続(可能)性の順次の原理がある。それは、カリキュラム全体の学年段階、各学年段階の単元、単元内の授業の各内容の連なりに重層的に反映され、地理的概念の理解と活用が徐々に深まるカリキュラム構成がとられている。
- 7) 分析対象となる動詞の例：「・pose questions and make observations」，不定詞の例：「・develop geographical questions to investigate」。
- 8) 分析対象となる名詞の例：「- identification of places they live in and belong to」。
- 9) 発達段階に応じて「生徒は常時、十分な探究を踏むとは限らない」と補足されつつも、「十分な探究の段階は、地理情報の獲得、処理、伝達すること」と説明されている。

文献

- 青柳慎一(2020)地理的な見方・考え方と地理的技能を育成する地域学習についての一考察—地理的分野「地域調査の手法」の指導計画の構想—。埼玉社会科教育研究, 26, pp.17-22.
- 朝倉隆太郎(1994)地図帳に関する小・中・高校生の意識。社会科教育研究, 71, pp.12-24.
- 池俊介(2012)地理教育における地域調査の現状と課題。E-journal GEO,7(1), pp.35-42.
- 井田仁康(2008)地理的技能による一貫カリキュラム。山口幸男・西木敏夫ほか『地理教育カリキュラムの創造—小・中・高一貫カリキュラム』古今書院, pp.109-115.
- 井田仁康(2016)高等学校「地理」の動向と今後の地理教育の展望。人文地理, 68(1), pp.66-78.
- 出石一雄(1970)地理の見方・考え方の発達に関する実証的研究—地理的能力調査の一例として。新地理18(1), pp.44-61.
- 唐木清志(2019)新学習指導要領は教科教育学の発展にどのように寄与できるか。日本教科教育学会誌, 41(4), pp.57-61.
- 菅野友佳(2018)小中高一貫地理カリキュラムにおける地理的概念の原理—オーストラリア連邦ニューサウスウェールズ州地理シラバス2015年版の場合—。新地理, 66(3), pp.1-11.
- 金辰辰(2012)『地理カリキュラムの国際比較研究—地理的探究に基づく学習の視点から—』学文社。
- 草原和博(1999)アメリカ・ナショナルスタンダード・地理フレームワーク。市川博(代表)『小・中・高等学校の一貫による社会科関連科目の連携に基づくフレームワークの研究』, pp.29-58.
- 国土交通省国土政策局(2012)初等中等教育における地理情報システム活用の手引き。(https://www.mlit.go.jp/kokudoseisaku/gis/gis/kyoiku/03_kyoin_tebiki_all.pdf) 2020/12/1確認。
- 篠原重則(2001)『地理野外調査のすすめ—小・中・高・大学の実践をととして—』古今書院, 289p.
- 滝口昭二(1973)小中高における地理の見方考え方の系統。新地理, 21(2), pp.20-32.
- 田部俊充・山縣耕太郎・小口久智・多胡清一(1997)アメリカ合衆国における『地理ナショナル・スタンダード(1994年版)』の概要と18スタンダードの全訳(1)。新地理, 45(3), pp.28-42.
- 中山修一(1991)『地理にめざめたアメリカ—全米地理教育復興運動』古今書院, 131p.
- 中山修一(1989)日米両国における国際化の進展と地理教育改革。社会科教育研究, 61, pp.1-15.
- 山口幸男・西木敏夫・八田二三一ほか(2008)小・中・高地理教育一貫カリキュラムの提案。山口幸男ほか編『地理教育カリキュラムの創造』古今書院, pp.1-29.

- 吉田剛 (2003) 地理的技能を育成する高校地理授業の設計－「野外調査」の授業づくりを通して－. 新地理, 50(4), pp.1-12.
- 吉田剛 (2008) 地理的見方・考え方と一貫カリキュラム. 山口幸男ほか編『地理教育カリキュラムの創造』古今書院, pp.103-108.
- 吉田剛 (2011) 社会科地理的分野における地理的見方・考え方と地理的技能の枠組み－内容知と方法知の視点から－. 新地理, 59(2), pp.13-32.
- 吉田剛・管野友佳 (2016) オーストラリアにおける「ニューサウスウェールズ州」および「連邦」地理カリキュラムの地理的概念の機能に関する比較研究－コンピテンシー・ベースによる地理カリキュラムからの示唆－. 社会系教科教育学研究, 28, pp.101-110.
- 吉田剛 (2017) 地理的概念の機能に着目した日米地理カリキュラムの比較研究. 社会科教育論叢, 50, pp.61-70.